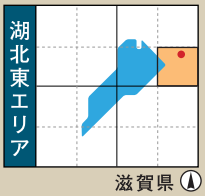
史跡
県指定

弥高寺跡（やたかじあと）

伊吹町弥高　昭和61年3月28日指定



滋賀県の最高峰、伊吹山中腹の尾根上に造られた山岳寺院が弥高寺です。『三代実録』の記載によれば、仁寿年間（851～854）に僧三修によって開かれたと伝えられ、国家公認の定額寺となった伊吹山寺の中心寺院として栄えました。たくさんの坊跡、修行場、墓地等がよく残り、山岳寺院の有様を知る上で重要な遺跡です。

当時のできごと	
853年	円珍入唐
1274年	文永の役（蒙古襲来）
1511年	山城徳政一揆

弥高寺の構造

弥高寺跡は、伊吹山から派生する尾根上の標高約700m付近に広がります。東西64m、南北55mの本坊跡を頂点に、約50カ所の坊跡、門跡などの遺構が南北300m、東西250mの範囲に扇形に展開しています。本坊の北東の行者谷と呼ばれる谷には、入定窟と呼ばれる行者の修行場があり、さらに、本坊の裏側には墓地が広がります。墓地の発掘調査では13世紀後半から15世紀にかけての蔵骨器が出土しています。

また、戦国期に京極氏や浅井氏の手により、城郭の一部として改造された跡を示す門の遺構も残ります。



上平寺から見た弥高寺



本坊跡

山岳寺院

伊吹山は古くから、神の宿る神聖な山として信仰を集めてきました。この山に対する原始的な信仰と、9世紀頃に伝わった密教とが結びつき、厳しい修行の場として、たくさんの寺院が山中に建立されるようになります。県内でも余呉町の管山寺、木之本町の己高山（こだかみやま）、浅井町の大吉寺（学習シートNo.062）、そして比叡山延暦寺（学習シートNo.004）などもこの系譜の寺院です。弥高寺はこれら山岳寺院の中でも最も典型的な姿を留めています。

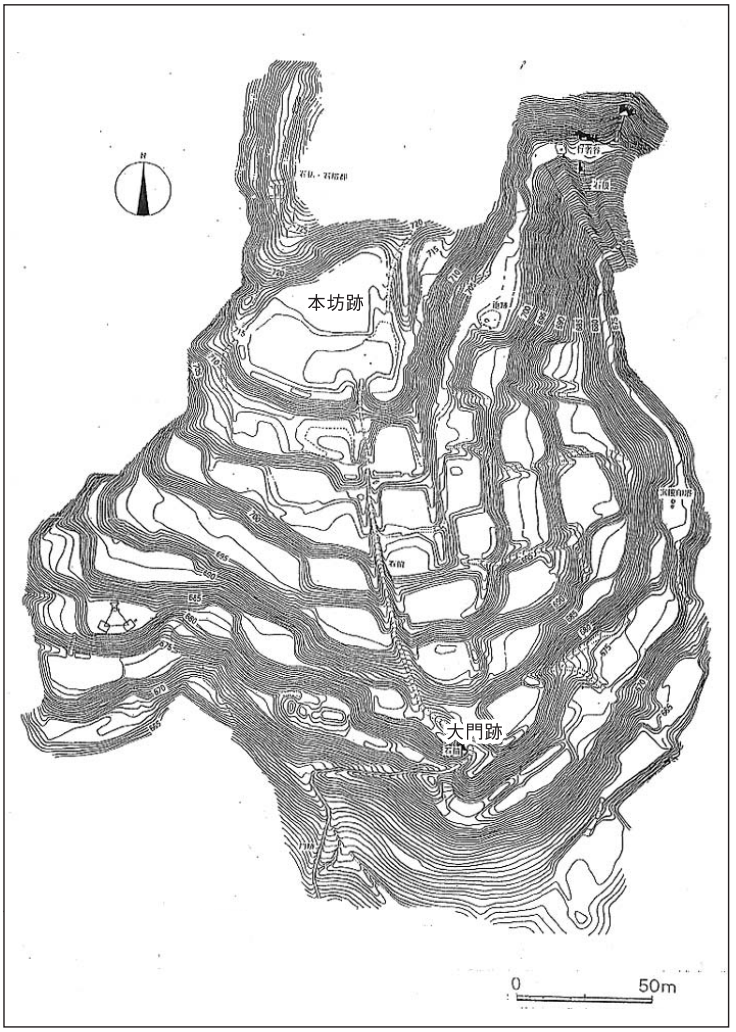
9世紀頃、伊吹山の中腹には、伊吹山寺と呼ばれる定額寺院の存在したことが、記録に見えます。これは弥高寺、太平寺、長尾寺、観音寺の伊吹四大寺を総称した名称と考えられ、この中の中心寺院が弥高寺でした。弥高寺は、永正9年（1512）に兵火に遭い衰退し、天正年間（1573～1592）には廃絶し、ふもとに坊舎を移します。



入定窟

弥高寺の改造

弥高寺は、寺院としては特異な構造を持っています。大門と呼ばれる一番下にある門の前面には、障子堀状の空堀を巡らせ、門自体も石積みを用いた枡形となっています。また、本坊も三方を高い土塁で囲み、さらに本坊の背面には巨大な空堀が配されています。これらはまさしく城郭の構造で、山麓の上平寺に拠点を置いた京極氏が、上平寺城とともにこの寺を城郭として利用したものと考えられます（学習シートNo.033）。



弥高寺跡測量図


墓地から出土した蔵骨器（鉄釉四耳壺）

関連する文化財

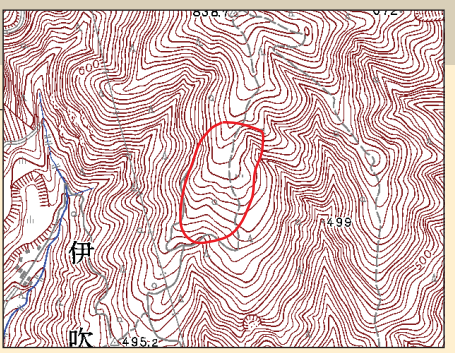
京極氏城館跡（伊吹町）	学習シートNo.033
観音寺遺跡（伊吹町）	伊吹山四ヶ寺の一つ。三修創建伝承。経塚遺構が残る
太平寺遺跡（伊吹町）	伊吹山四ヶ寺の一つ。三修創建伝承

もっと深く知りたい

伊吹山文化資料館　☎0749-58-0252　坂田郡伊吹町春照77

弥高寺跡へのアクセス

JR東海道本線　柏原駅下車
名神自動車道　関ヶ原インター



【参考文献】〔弥高寺跡発掘調査報告書〕滋賀県教育委員会　〔近江の遺跡〕（財）滋賀県文化財保護協会

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月